



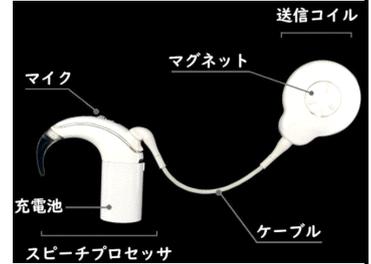
# 自立活動だより

No 10  
文責  
自立活動支援センター  
R 3.1 1.1 2

朝晩の冷え込みが厳しくなり、暖房器具が恋しい季節となりました。

最近、人工内耳の故障が2件ありました。いずれもスピーチプロセッサと送信コイルをつなぐケーブルの断線です。その内、1件はケーブルの予備を常備していたので、すぐに交換し修理することができました。しかし、もう1件は、ケーブルの予備がなかったために修理することができず、聞こえないままで1日過ごすしかありませんでした。本校に在籍している子どもたちは、非常に良く聴覚を活用して話を理解しています。これを支えているのが言うまでもなく人工内耳や補聴器などの聴覚補償機器です。聴覚補償機器の不具合があると途端に不安な顔つきになり、コミュニケーションが成り立たなくなってしまいます。

備えあれば憂いなし。人工内耳も補聴器も常備させていただきたいのは、バッテリーです。人工内耳の場合は、充電電池かボタン電池を、補聴器はボタン電池を必ず常備させてください。また、人工内耳で一番多い故障がケーブルの故障です。人工内耳装用児は、ケーブルの予備も常備させてください。常に、ベストの状態に、聴覚補償機器を装着しましょう。



## ていねいに、ていねいには ～「言葉で考えられる子ども」について～

しつけに関連した言葉に、「頭ごなしに叱る」という言葉があります。とにかく、子どもの振る舞いで、その場にふさわしくない振る舞いをしたとき、叱ってやめさせることです。言い換えれば、「だめなことはだめ」も同じような意味で使われます。だめなことは、だめだからとにかく叱ってやめさせるしつけです。命の危険のあるような行動の場合は、このようなしつけも必要になります。とにかくその行動を止めさせて危険回避させる場合です。しかし、特別な場合を除いて、「頭ごなしに叱る」や「だめなことはだめ」のようなしつけでは、養育者の顔色をうかがって行動するばかりで、また別な場面で同じような振る舞いをしてしまいます。大切なのは、なぜだめなのかを話し合い、子どもに言葉で納得させることです。そうすることで、他の場面でもどう振る舞えば良いか前の経験を生かして、言葉で自ら判断できる力が育ちます。子どもの言い分もじっくり聞いてあげれば更に丁寧な関わりとなります。また、話し合いを深める絶好の機会となります。なぜその振る舞いが良くないのか話し合い、子どもも納得してくれたならそれが知恵となり、次は同じ失敗を繰り返すことがないように行動しようとするでしょう。また、このことは子どもの言葉を育てることもなります。しつけの場面でも、言葉を育てながら係わっていくことができたらいいですね。しつけで大切にしたいことは、子どもの良いところ見つけて褒めるしつけです。どうしても子どもの行動の良くないところに目がいき、叱ってばかりということになりがちですが、些細なことでも良い所を見つけて褒めることで、望ましい振る舞いを学び、望ましい振る舞いを進んでしようするようになっていきます。



※参考文献 「子どもを信じること」 田中直樹著 大隈書店

## 映画「咲む-emu-」の紹介

今、全国で映画「咲む-emu-」が上映されています。この映画は、看護師試験に合格したろうの女性の瑞月（みづき）が、就職活動をするが思うようにいかず、様々な壁にぶち当たりながら生きる姿を描いた映画です。福島県では、10月31日（日）に郡山市中央公民館で上映されました。



